

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富士宮市立あすなろ園		
○保護者評価実施期間	R7年 11月 18日		～ R7年 11月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20 人	(回答者数) 20 人
○従業者評価実施期間	R7年 12月 6日		～ R7年 1月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13 人	(回答者数) 13 人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・クラスや担当という枠だけではなく、みんなで考えて対応していることが多く、職員の連携ができています。	・こどもの状況に応じ、担任以外の職員との連携を心掛けています。 ・各部屋に呼び出しボタンを設置したことで、場面に応じて職員配置の連携がしやすくなっています。 ・専門職との連携だけではなく、調理師や看護師と一緒に、こどもたちの成長を見守っています。	・職員が連携しやすいように、毎朝のミーティングや、職員会議や支援会議やリーダー会議以外にも職員同士で話しをする時間を確保するように意識を高めていきます。
2	・一人ひとりがいきいきと遊びや生活に取り組めるように、活動プログラムを工夫しています。	・クラス担任がこども一人ひとりの興味や関心や発達に合わせた遊びを提供しています。 ・各クラスで話し会以外に、支援会議、リーダー会議、職員会議などで情報共有をし、必要な検討を行うことで、プレイルームや園庭等の共有スペースの環境設定も工夫しています。 ・週に一回、わくわくタイム(集会形式)を行い、集団の中でも楽しめるように工夫しました。	・日々の活動の内容だけではなく、工夫しているポイントやこどもの姿からの気づき(今後の活動に向けた)家庭での子育てに生かしてもらえるように共有していきます。
3	・個別支援計画を丁寧に立て、こどもの成長と保護者への支援を行っています。	・面談や送迎時での話や、家庭連携票を使って保護者の意向を把握しています。 ・調理師も含めて、関係する職員が協力して、一人ずつ丁寧に支援計画を立てています。 ・時間をかけて話し合い、共通理解を深め、こどもの最善の利益への考慮に努めています。	・ケース会議を行い、さらに細やかな配慮ができるようにしていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・災害時マニュアルを配布してありましたが、詳しく説明する機会がなく、保護者への周知が不足していました。	・保護者会や、懇談会など保護者と話す場面で、災害時についての話を詳しくすることがなかった。	・わかりやすくお伝えできるような機会を作り、その中で保護者のニーズを把握しより良い対応ができるように努めたいと思います。
2	・コロナ禍以前にやっていた兄弟への支援が再開できていません。	・コロナ禍により、毎年検討課題ではあったものの再開するきっかけがありませんでした。	・運動会にきょうだいが参観している様子も見られ、きょうだいの参加できる種目を考えたり、その他の行事への参加も出来るように工夫します。
3			